



被爆 70 周年の取組

平成 26 年 2 月

広 島 市

目 次

<u>被爆 70 周年の取組について</u>	 P 1
------------------------	-----------

<u>被爆 70 周年記念事業</u>	 P 4 ～ P24
---------------------	-----------------

被爆 70 周年記念事業一覧表	 P 4
-----------------	-----------

1 平和の発信力の強化	 P 6
-------------	-----------

2 被爆者援護と次世代への平和への思いの継承	P 12
------------------------	-----------

3 文化・芸術による平和の体現	 P 17
-----------------	------------

4 復興したまちの魅力の再発見と更なる発展	 P 22
-----------------------	------------

<u>まちづくり先導事業</u>	 P26
------------------	-----------

<u>(参考)被爆 70 周年記念事業のアイデア募集結果</u>	 P30
----------------------------------	-----------

被爆 70 周年の取組について

1 趣旨

広島市は、世界に誇れる「まち」の実現に向けて、「活力とにぎわい」、「ワーク・ライフ・バランス」、「平和への思いの共有」という三つの要素の展開によるまちづくりを進めている。

その中で、平成 27 年(2015 年)には、被爆 70 周年という節目の年を迎える。

被爆 70 周年は、原爆死没者の慰霊と被爆者の援護、被爆体験の継承という被爆都市ヒロシマの役割を再確認し、決意を新たに「平和への思いの共有」を体現する年とするとともに、これまでのまちづくりの成果を踏まえ、まちづくりの新たな一歩を踏み出す年と位置付け、広島市の将来に向けた取組を行う。

2 基本方針

趣旨を具現するため、以下の四つに力点を置いて取り組む。

○ 平和都市としての求心力の向上

原爆死没者に対し哀悼の意を表すこと及び被爆者に対する援護を原点としつつ、世界中の人が訪れてみたいと感じ、訪れた人が、被爆の実相に触れ、被爆者の体験や平和への思いを共有するとともに、四季を通じて開催される多彩な行事や街並み、暮らしから、「平和の尊さ」を体感することができる「まち」を目指す。

○ ヒト・モノ・カネを呼び込む都市の魅力の創造

ヒト・モノ・カネを強力かつ持続的に呼び込むことができるよう、都市機能を戦略的に配置するとともに、地域の特性や資源を生かし、新しい魅力を発信する「まち」を目指す。

○ 心通い合う地域コミュニティの形成

自助・共助の精神や幅広い主体の連携・協働の下に、市民が自らの住む地域に愛着と誇りを持ちながら、充実した生活を送り、将来にわたって安心して暮らせる「まち」を目指す。

○ 市民と行政による新たな価値の創出

地方分権時代にふさわしい独創性・推進力ある行政を確立し、市民の力を最大限に生かすことによって、先進的なチャレンジを行い、新たな価値を生み出す「まち」を目指す。

3 取組内容

(1) 被爆 70 周年記念事業

「平和都市としての求心力の向上」を目的に、被爆 70 周年を記念するにふさわしい事業を次の四つのテーマに沿って実施する。

- ・ 平和の発信力の強化
- ・ 被爆者援護と次世代への平和への思いの継承
- ・ 文化・芸術による平和の体現
- ・ 復興したまちの魅力の再発見と更なる発展

記念事業の内容については、市民等から応募していただいたアイデアも参考にしている。

(2) まちづくり先導事業

被爆 70 周年を契機に、被爆 100 周年を見据えて目指すべきまちの姿の骨格を示し、その実現に資する新たな事業等を「まちづくり先導事業」として位置付けて取り組む。

4 今後の予定

引き続き事業の追加等について検討し、平成 26 年度に最終的な取りまとめを行う。

被爆 70 周年記念事業

被爆 70 周年記念事業一覧表

区 分	事 業 名	頁
1 平和の発信力の強化		
1	「平和・安全保障事典」の編さん	6
2	日本平和学会春季研究大会・光の肖像展の開催	6
3	ヒロシマ 70 平和セミナーの開催	7
4	「広島P2ウォーカー」推進事業の拡充	7
5	平和記念式典の充実	8
6	広島・長崎連携事業「原爆・平和を読み語りつぐ事業」の実施	8
7	平和をテーマにした映画の特集上映	9
8	国連軍縮会議の開催	9
9	折り鶴ポストカードの制作	10
10	青少年国際平和未来会議の開催	10
11	中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」の実施	11
2 被爆者援護と次世代への平和への思いの継承		
12	被爆70年史編修発行事業の実施	12
13	「子どもたちへ原爆を語りつぐ本－総集版・2015－」の発行関連事業の実施	12
14	被爆関連映像資料のアーカイブ化	13
15	被爆体験記集の作成・配付	13
16	平和記念式典への在外被爆者及び遺族の招へい	14
17	被爆者との交流促進等事業(仮称)の実施	14
18	原爆死没者慰霊式典の記録(冊子出版)	15
19	平和記念公園レストハウスの改修	15
20	『「命の水」～ひろしま水道物語～』による被爆体験の伝承	16
21	第 23 回世界スカウトジャンボリー(広島ピースプログラム)の開催支援	16

区 分	事 業 名	頁
3 文化・芸術による平和の体現		
22	現代美術館特別展の開催	17
23	博物館資料を活用した企画展示の開催	17
24	平和のタベコンサートの拡充	18
25	広島交響楽団特別事業「摂氏 4000 度からの未来」プロジェクトの実施	18
26	国連合唱団コンサートの開催	19
27	2015こどもコーラスフェスティバルinひろしまの開催	19
28	祈りの能楽祭の開催	20
29	障害者と広島交響楽団とのジョイントコンサート(マーガレットコンサート)の拡充	20
30	障害者ピースアート事業(仮称)の実施	21
4 復興したまちの魅力の再発見と更なる発展		
31	「広島 とおごさいれいみこし 通り御祭礼神輿行事」の復活・継承	22
32	復興の都市計画についての企画展の開催	22
33	広島の誇りある景観まちづくりプロジェクトの実施	23
34	全国花のまちづくり広島大会の開催	23
35	猿猴橋復元事業の実施	24

1 平和の発信力の強化

1 「平和・安全保障事典」の編さん	
目 的	平和に関する事典は、昭和 60 年に(財)広島平和文化センターによって編さんされ、平成 3 年に新訂版が刊行された「平和事典」のみであることから、その後の国際情勢の変化や平和研究の蓄積を踏まえて、平和に関する情報を広く研究者や市民に提供するため、新たに「平和・安全保障事典」を編さんする。
内 容	これまでの我が国の平和研究の蓄積を基に、平和学理論・平和政策、平和の概念、広島・長崎の被爆と核災害、核政策史、福島第一原子力発電所の事故など、最新の問題も含めた平和研究のための重要かつ基礎文献となる事典を編さんする。 刊行後は、平成 27 年に行われる平和関連行事の場で幅広く PR することにより、広島市の平和研究の成果を国内外に発信する。
備 考	平成 25～26 年度 執筆、編集会議、出版業者との調整 平成 27 年 7 月 出版契約、刊行
担当局・課	企画総務局企画調整部企画調整課(広島市立大学広島平和研究所)

2 日本平和学会春季研究大会・光の肖像展の開催	
目 的	日本平和学会の春季研究大会を広島で開催し、広島平和研究所に蓄積された平和研究の成果を披露することにより、全国の平和研究学界における本市の求心力を高め、被爆都市としての平和発信機能の再認識・再構築を図る。 また、肖像画という芸術作品を通して、学会への参加者や一般来場者に被爆者の思いや願いを共有してもらうため、「光の肖像展」を合同開催する。
内 容	1 日本平和学会春季研究大会(2 日間) 1 日目 開会、部会、自由論題部会、分科会、総会、記念講演会、合同懇親会 2 日目 部会、分科会、自由論題部会、閉会 2 光の肖像展 広島市立大学芸術学部油絵専攻の教員、学生が描いた広島の被爆者やその二世・三世の肖像画を展示 展示期間:2 日間(大会開催期間中)
備 考	平成 25～26 年度 日本平和学会との調整 平成 27 年 6 月 大会・光の肖像展の開催(2 日間)
担当局・課	企画総務局企画調整部企画調整課(広島市立大学広島平和研究所、同大学芸術学部)

3 ヒロシマ 70 平和セミナーの開催	
目 的	平和研究に関心のある若者を対象として、特に、平和問題を伝えていくマスメディア関係者、平和行政や政策を進めていく者、将来にわたって平和問題に取り組んでいく学生が広島に集い、それぞれの役割の重要性を認識し進むべき方向について学び考えてもらうため、広島平和研究所において「ヒロシマ 70 平和セミナー」を開催する。
内 容	国内外の第一級の専門家を迎えて、平和と核問題の歴史と現状分析に関する3日間の集中講義を行うとともに、参加者による意見交換を行う。 また、講義及び意見交換の内容を一冊の本としてまとめ、出版する。 コースごとの講義科目(案) - 核兵器の非合法化に向けて(基調講演を含む) - 原爆被害の実相(グローバル被爆者) - 核・軍備管理の現状 - 核の平和利用とIAEA - 核兵器と国際法 - 戦争原因論と予防外交論 - 現代戦争論 - 平和構築論 - 予防外交と安全保障共同体 - 国連の安全保障政策 - アジアの核開発と人間安全保障 - アジアの核開発 - 人間の安全保障論 - 日本の平和外交 - 東アジア信頼醸成措置
備 考	平成 27 年 8 月下旬に 3 日間連続で開催
担当局・課	企画総務局企画調整部企画調整課(広島市立大学広島平和研究所)

4 「広島P2ウォーカー」推進事業の拡充	
目 的	平和記念公園及びその周辺地域を訪れる国内外の方に、平和に関する情報や観光情報を提供している「広島P2(ピース)ウォーカー※」について、最新技術を活用して内容を充実することにより、平和都市広島の発信力の強化を図る。 ※ 広島P2(ピース)ウォーカー 「Peace(平和)」を学び、「Park(公園)」や広島街をもっと深く知りながら楽しく歩けるようにとの思いで、携帯電話やスマートフォン向けに平和等に関する情報を提供している。
内 容	- AR 技術※を活用した記念碑の説明箇所を増加 - コンテンツの英語表記対応数を増加 - 若年層向けの動画や静止画のコンテンツを新たに追加 (学校等で作成した平和学習動画など) - AR 技術を活用して、被爆前後の広島街並み等を再現するコンテンツを新たに追加 ※ AR(Augmented Reality: 拡張現実)技術 スマートフォンやタブレット端末をかざすと、何も無いはずの場所にあたかも本当に存在するかのごとく、ディスプレイ上に関連する画像や説明文を表示させる技術。
備 考	平成 26 年度 追加コンテンツ作成等 平成 27 年度 拡充実施
担当局・課	企画総務局情報政策部情報政策課

5 平和記念式典の充実	
目 的	被爆 70 周年にあたる平和記念式典では、より一層「迎える平和」を推進するため、来賓の充実と市民参画の推進、被爆者の高齢化等に配慮した運営を図り、核兵器廃絶への強い思いを広島から全世界に発信する。
内 容	1 来賓の充実 (1) 平和首長会議のリーダー都市の首長への参列案内 (2) 司法機関の長である最高裁判所長官への参列案内 2 市民参画の推進 (1) 未来を担うこどもの招へい 平和首長会議リーダー都市のこども代表、姉妹・友好都市のこども代表 (2) 在外被爆者等の招へい 在外被爆者代表、在外遺族代表 3 被爆者の高齢化等に配慮した運営 全参列席へのテント設置
備 考	平和記念式典の開催 平成 27 年 8 月 6 日(木) 全参列席へのテント設置 平成 26 年度 中央参道石舗装改良 平成 27 年度～ テント設置(会場全面、合唱団・吹奏楽団)
担当局・課	市民局市民活動推進課

6 広島・長崎連携事業「原爆・平和を読み語りつぐ事業」の実施	
目 的	被爆地である広島市と長崎市の図書館同士が初めて連携し、両市が所蔵する資料の交換展示(交流特別展)を両市の図書館で開催するとともに、被爆体験継承講座を同時に開催することにより、被爆の実相をより深く伝え、次世代への被爆体験の継承と一層の平和意識の高揚を図る。
内 容	1 交流特別展 広島・長崎両市の市立図書館において、それぞれの展示スペースに「ヒロシマ」、「ナガサキ」を伝えるコーナーを設け、両館及び関係機関が収集・保存してきた被爆に関する資料(図書、雑誌、写真、図など)を展示し、両市の被爆の実相や、復興の様子を伝える。 また、市立図書館全館で、原爆・平和に関する図書(広島・長崎関連)の展示・貸出を行う。 2 被爆体験継承講座 広島と長崎の被爆の実相を伝え、被爆体験を次世代へ継承していく講座(全 3 回)を開催する。
備 考	広島市での実施概要 1 交流特別展 実施時期 平成 27 年 7 月中旬～8 月末 会 場 中央図書館 2階 展示ホール 2 被爆体験継承講座 実施時期 平成 27 年 7 月中旬～8 月末 会 場 中央図書館 3階 セミナー室
担当局・課	市民局生涯学習課(中央図書館)

7 平和をテーマにした映画の特集上映	
目 的	広島市映像文化ライブラリーにおいて、開館以来収集してきた平和や原爆をテーマにした映画を集中的に上映し、映像を通じて被爆体験を継承し、平和への思いを新たにすることを促進する。
内 容	平和や原爆をテーマにした名作映画の上映(約 30 本) 上映予定作品 「原爆の子」、「ひろしま」、「第五福竜丸」、「ひめゆりの塔」、「愛と死の記録」、「私は貝になりたい」、「二十四の瞳」、「日本のいちばん長い日」、「戦争と人間」三部作、「千羽づる」、「さくら隊散る」、「火垂るの墓」、「八月の狂詩曲」など
備 考	実施時期 平成 27 年 6 月～8 月 会 場 広島市映像文化ライブラリー2 階ホール
担当局・課	市民局生涯学習課(映像文化ライブラリー)

8 国連軍縮会議の開催	
目 的	国連軍縮会議を本市で開催し、関係機関と連携しながら、当会議参加のために本市を訪れる各国の為政者や政府高官等に核兵器廃絶を願う広島のを伝え、核兵器廃絶の実現に向けた重要なプロセスとする。
内 容	世界各国の為政者、政府高官、軍縮問題の専門家が軍縮等に関する議論を行う国連軍縮会議を開催する。 また、会議開催の機会を捉えて、出席者等に対し広島の魅力の PR を行う。
備 考	
担当局・課	市民局国際平和推進部平和推進課 2020 ビジョン推進担当

9 折り鶴ポストカードの制作	
目 的	被爆 70 周年に開館 60 周年を迎える平和記念資料館において、これを記念した折り鶴再生紙を使用したポストカードや絵はがきを配付・販売し、平和を願うメッセージの発信に活用してもらうことにより、折り鶴に託された思いの昇華と平和への思いの共有を図る。
内 容	折り鶴再生紙を使用したポストカードを制作し、平和記念資料館の入館者に無償配付するとともに、記念絵はがきを制作・販売し、平和を願うメッセージの発信に活用してもらう。 また、ポストカードを活用して、平成 30 年度の資料館のリニューアルオープンを広く PR する。
備 考	平成 27 年度以降 ポストカード、記念絵はがきの制作 資料館入館者へのポストカードの配付、記念絵はがきの販売
担当局・課	市民局国際平和推進部平和推進課被爆体験継承担当

10 青少年国際平和未来会議の開催	
目 的	青少年国際平和未来会議※を開催することにより、青少年の世界平和への意識を高めるとともに、国際社会に貢献することができるグローバル人材の育成を目指す。 また、併せて、同会議に参加した青少年をつなぐネットワークの構築を図る。 ※ 青少年国際平和未来会議 世界の国々の青少年と本市の青少年が一堂に会し、世界平和について意見を交換し、未来に向けた取組について話し合い、全世界に平和のメッセージを発信するため、被爆 60 周年以来、本市と姉妹・友好都市等において毎年交互に開催しているもの
内 容	1 記念プログラム 過去 10 年間の本会議への参加者に呼びかけ、本会議参加後に各自が行ってきた活動を報告してもらうほか、平和貢献についてのディスカッションを行い、今後、各自がなすべき活動について共に考え、意見交換する。 2 継続プログラム 姉妹・友好都市等と本市の青少年が本市に集い、被爆の実相を学ぶとともに、各都市で行われている平和貢献活動等について情報交換し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて話し合い、ヒロシマアピールとしてまとめて発表する。
備 考	平成 26 年度 過去の参加者の情報収集、記念プログラムへの参加呼びかけ 平成 27 年度 実行委員会設立、参加者募集、事業実施、報告書作成
担当局・課	教育委員会青少年育成部育成課

11 中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」の実施	
目 的	本市が進める平和教育、英語教育の成果を生かし、中学生が広島を訪れた海外の人々に対して英語でメッセージを伝える活動を通して、平和への意識の高揚や英語力の向上を図るとともに、グローバル人材の育成につなげる。
内 容	中学３年生の中からメッセージ発信者を選考し、８月６日に平和記念公園において、広島を訪れた海外の人々に対して、英語で平和へのメッセージを伝える活動を行う。 活動内容：平和記念式典に参列する駐日大使や海外からの一般参列者へのメッセージ発信 ひろしま子ども平和の集いでの発信 青少年国際平和未来会議での発信 など
備 考	平成 26 年度 各中学校への事業周知、文案募集 平成 27 年度 メッセージ発信者の選考、研修会実施、事業実施、まとめ作成
担当局・課	教育委員会学校教育部指導第二課

2 被爆者援護と次世代への平和への思いの継承

12 被爆 70 年史編修発行事業の実施	
目 的	明治以降の広島、とりわけ被爆前の広島と被爆後復興した広島の歩みを振り返ることで、若者が被爆の実相と広島への歴史への理解を深め、未来を展望するきっかけとするとともに、被爆者や復興関係者の証言、関係する文書、写真などの貴重な資料を後世へ伝承するため、70 年史の編さんを行う。
内 容	1 70 年史の概要 70 年史は、学術研究等に基づくテーマ別の特論とグラフィカル(視覚的)なページのバランスを図った戦後史を概観できるような編集を行うとともに、戦前からの都市基盤や文化・習慣等の「継承」や「変遷」にも焦点を当てた市史とする。また、過去 20 年間に収集された新たな写真資料やその後の学術研究成果等を織り込むとともに、これまでと異なる視点も交えた戦後史とする。 2 関連事業 昭和 23～24 年頃の広島市民の生活などが記録されている映画「平和記念都市ひろしま」の複製を入手し、市内で上映する。
備 考	平成 26 年度 資料調査・資料収集、映画「平和記念都市ひろしま」の複製入手 平成 27 年度 資料調査・資料収集、映画上映会の開催 平成 28 年度 原稿執筆・編集 平成 29 年度 印刷発行
担当局・課	企画総務局公文書館

13 「子どもたちへ原爆を語りつぐ本－総集版・2015－」の発行関連事業の実施	
目 的	「子どもたちへ原爆を語りつぐ本[※]」の増補改訂版を発行するとともに、発行を記念した講演会等を同時に開催することで、より多くの人に原爆や平和について学ぶ機会を提供する。 ※ 子どもたちへ原爆を語りつぐ本 こども図書館が収集した原爆に関する児童書の中から、幼児から中学生までを対象とする図書目録を掲載したものであり、被爆 40 周年以来、10 年ごとに増補改訂版を発行している
内 容	1 「子どもたちへ原爆を語りつぐ本－総集版・2015－」の発行 (1) 目録掲載数 約640点 (前回改訂時から約 120 点の追加) (2) 主な配付先 広島市内幼稚園、保育園、小・中学校、公民館等 (図書館ホームページにも掲載し、閲覧及びダウンロードによる入手も可能とする。) 2 講演会 目録に追加掲載する本の作家による「自作を語る」講演会を開催する。 3 ブックトーク 小学校高学年・中学生を主な対象として、目録に追加掲載する本を中心に、テーマに沿って紹介する会を開催する。
備 考	平成 27 年度 「子どもたちへ原爆を語りつぐ本」の発行、講演会等の開催
担当局・課	市民局生涯学習課(こども図書館)

14 被爆関連映像資料のアーカイブ化	
目 的	広島テレビ放送局が所蔵している被爆の実相を伝える様々な映像について、広島市がアーカイブ化を進め、情報の整理・集積を図り、被爆体験を後世へ継承するための資料とするとともに、その活用を図る。
内 容	広島テレビ放送局と連携し、放送局が所蔵する映像のアーカイブ化を進め、可能なものから成果の公開に努める。 なお、全面リニューアル後の平和記念資料館でも、成果の一部を活用する。
備 考	平成 27 年度 事業着手
担当局・課	市民局国際平和推進部平和推進課被爆体験継承担当(平和記念資料館)

15 被爆体験記集の作成・配付	
目 的	これまで執筆補助事業※で収集してきた被爆体験記を取りまとめ、広島市内の中学校・高等学校へ平和学習資料として配付することにより、次世代を担う子どもたちへの被爆体験の継承を図る。 ※ 執筆補助事業 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の職員が、被爆者から、被爆前や被爆直後の状況、被爆の惨状、救援・救護・復旧活動、家族・友人・知人の被爆状況を詳細に聞き取り、被爆体験記の執筆を補助している。
内 容	平成 26 年度末までの間に収集する被爆体験記を取りまとめて被爆体験記集を作成し、平和学習資料として広島市内の中学校・高等学校に無償配付する。なお、用紙は折り鶴再生紙を使用する。 平成 27 年度以降も執筆補助事業を継続し、その成果物を定期的に被爆体験記集として取りまとめ、配付する。
備 考	平成 27 年 4 月～7 月 被爆体験記集作成 平成 27 年 8 月上旬 配付
担当局・課	市民局国際平和推進部平和推進課((公財)広島平和文化センター)

16 平和記念式典への在外被爆者及び遺族の招へい	
目 的	平和記念式典には、10 周年ごとに在外被爆者及びその遺族を招へいしており、被爆 70 周年においても、在外被爆者及びその遺族を招へいし、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う強い思いを共有し、世界へ発信する。 併せて、国内在住被爆者との交流を行うとともに、招へいした在外被爆者に対して健康相談を行い、心身の保養を図る。
内 容	・ 在外被爆者及びその遺族の招へい ・ 在外被爆者等と国内被爆者との交流 ・ 在外被爆者に対する健康相談 滞在日程(案) 8 月 5 日[泊:神田山荘] 来日 8 月 6 日[同 上] 平和記念式典参加、平和関連行事への参加 8 月 7 日[同 上] 国内在住被爆者との交流、原爆養護ホーム入所者との交流 8 月 8 日[同 上] 健康相談(被爆者)、施設見学(遺族) 8 月 9 日 帰国
備 考	平成 26 年度 在外被爆者団体や関係機関との調整 平成 27 年 8 月 5 日(水)～8 月 9 日(日)(4 泊 5 日) 招へい、交流
担当局・課	健康福祉局原爆被害対策部調査課

17 被爆者との交流促進等事業(仮称)の実施	
目 的	(財)広島市原爆被爆者協議会が運営する神田山荘において、各種イベントを開催し、被爆者及び一般客の利用促進を図るとともに、施設の特性を踏まえ、被爆者との交流や平和学習の場としての活用を一層促進する。
内 容	1 平和に関するパネル展示等 ロビーに平和に関するパネル展示を行うとともに、多目的室等を使用して被爆者との交流会や平和学習会を開催し、被爆の実相等を学ぶ機会とする。 2 被爆ピアノコンサート 多目的室を使用して被爆ピアノの演奏会を行い、平和への意識の高揚を図る。 3 神田山荘フェスタ フェスタ期間を 2 日間に拡大して利用促進の PR を行うとともに、パネル展示等が行われている期間にフェスタを開催することで、神田山荘の新たな役割を広める。 ※ 神田山荘フェスタは例年 11 月に 1 日開催しており、神楽公演やバザー、健康づくりコーナー等を実施している。
備 考	平成 26 年度 事業内容の企画・立案 平成 27 年 8 月～10 月 事業実施
担当局・課	健康福祉局原爆被害対策部調査課((財)広島市原爆被爆者協議会)

18 原爆死没者慰霊式典の記録(冊子出版)	
目 的	本市は、永遠の平和を祈念することを目的として、原爆死没者を慰霊するために、地域・職域単位で行われる慰霊式典に対して補助金を交付している。(平成 25 年度:35 件) 被爆者の高齢化が進んでいる状況を踏まえ、被爆者自身が参加して行われているこれら慰霊式典の実施状況を記録した冊子を出版し、後世に継承する。
内 容	平成 27 年度において実施される慰霊式典について、以下の内容を記録した「ヒロシマの原爆死没者慰霊式典」(仮称)を出版する。 構成(案) ・ 名称 ・ 実施日、実施場所 ・ 参加人数 ・ 慰霊式典の経緯及び開催概要 ・ 慰霊式典の写真 など
備 考	平成 27 年度 編集・発行
担当局・課	健康福祉局原爆被害対策部調査課

19 平和記念公園レストハウスの改修	
目 的	原爆ドームや平和記念資料館、レストハウスがある平和記念公園は、どこの地域にもないオンリーワンの世界的魅力を持っており、将来にわたり国内外から多くの人を引き付けるためには、この魅力をさらに高めていく必要がある。 レストハウスは、被爆により破損したものの倒壊を免れており、平和記念公園内では被爆前の面影を残す唯一の建物となっている。 被爆 70 周年を契機に、このレストハウスを改修し、平和記念公園内での「おもてなし」の向上を図るとともに、観光資源として効果的に活用して、平和記念公園の魅力をさらに高める。
内 容	平和記念公園が国の名勝であることから文化庁と協議しつつ、レストハウスの耐震補強を行い、地下部の保存、休憩・案内機能の拡充などを行う。
備 考	平成 26 年度 老朽度・耐震診断調査 平成 27～28 年度 耐震補強計画立案、実施設計等 平成 29 年度 工事着手 平成 30 年度 工事完了・オープン
担当局・課	経済観光局観光政策部観光企画担当

20 『「命の水」～ひろしま水道物語～』による被爆体験の伝承	
目 的	本市が原爆で壊滅的な被害を受けた際にも、本市の水道は当時の職員の献身的な行動によって、市全域での断水が避けられ、今日まで不断水の記録を伝統として守り続けている。 このエピソードを改めて広くPRし、被爆体験を伝承するとともに、本市の水道事業に対する信頼を高める。
内 容	本市では、被爆 60 周年記念事業において、原爆投下の日、自ら火傷を負いながらも壊れたポンプを修理し、広島市の街に水を送り続けた職員(堀野九郎技手)のエピソードを『「命の水」～ひろしま水道物語～』として紙芝居及び DVD を制作して、水道局の各種イベントにおいて活用するとともに、随時貸出も行っている。 この紙芝居を、8 月 6 日の平和学習に活用してもらうことを目的に、市内の小学校を対象に配付する。また、インターネットの動画配信サイトなど、情報メディアに DVD 映像の投稿を行い、このエピソードをより広めていく。
備 考	平成 27 年度 紙芝居の作成・配付及び DVD 映像の投稿
担当局・課	水道局企画総務課

21 第 23 回世界スカウトジャンボリー(広島ピースプログラム)の開催支援	
目 的	山口県山口市をメイン会場に、日本では 44 年ぶりに開催される第 23 回世界スカウトジャンボリー※の 1 プログラムである「広島ピースプログラム」の開催を支援することにより、参加者が被爆の実相や核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願うヒロシマの心に触れ、平和について考え語り合う機会を提供し、平和への思いの共有を図る。 ※ 第 23 回世界スカウトジャンボリー 4 年に 1 度開催される世界スカウト機構主催のスカウトの大会であり、第 23 回大会は、山口県山口市きらら浜をメイン会場として、161 の国・地域から約 2 万 4 千人の青少年が集い、平成 27 年 7 月 28 日から 8 月 8 日までの 12 日間開催される。参加者は、平和、健康、環境、人権等をテーマに体験を交えながら学習するとともに、山口県内各地の学校などを訪れ、青少年や地域の方と交流する。
内 容	7 月 30 日から 8 月 6 日までの間、スカウトジャンボリー参加者全員が交代で広島市を訪れ、平和記念資料館や平和記念公園の見学、被爆体験記朗読会、慰霊折り鶴製作、平和記念式典参列(参加国代表者等 200 人)などを行う「広島ピースプログラム」の開催を支援する。
備 考	平成 27 年 7 月 30 日(木)～8 月 6 日(木) 広島ピースプログラムの開催
担当局・課	教育委員会青少年育成部育成課